

GRIT 西葛西中 Times

(GRIT の意味:「頑張り抜く」)

2026/9/1

はっこうしゃ こうちょう おの りゅういち
発行者: 校長 小野 隆一

「確かな学力」と「豊かな学び」、 そして「安心できる学校づくり」に向けて

ほごしゃ みなさま ひとより ほんこう きょういかつどう りかい きょうりよく
保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をい
ただき、心より感謝申し上げます。

じゅうじつ なつやす あのみ おお がっき ぎょうじ ひび がくしゅう
充実した夏休みが明け、実り多き2学期がスタートしました。行事や日々の学習を
とお せいとひとり おお せいちょう じき あ こんごう ほんこう と
通して、生徒一人ひとりが大きく成長するこの時期に合わせて、今号では本校が
く かつよう がっこう ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちようさ けつ か
取り組む「Q-Uデータを活用した学校づくり」と「全国学力・学習状況調査の結果」
についてご紹介いたします。

心と学級の「健康診断」



1 「Q-U調査」とは? ～心と学級の「健康診断」～
テストのように成績や順位を競うものではありません
生徒が学校生活にどれだけ満足しているか、客観的な数値で捉える
教職員チームによるサポート
承認感 (認められている実感) 被侵害感 (不安や悩みがないか)

データ(エビデンス)を土台に「自主協働」を育む

(1) 「自主・協働」の基盤をつくる授業と学校行事

**安心**
(居場所づくり)
失敗しても大丈夫
全員に役割(出番)

**発言**
(自主性の発揮)
ICT機器活用
意見を尊重

**関わり**
(協働性の高まり)
対話的グループ学習
互いの強みを生かす

(2) 不登校の未然防止といじめの早期発見・対応

**SOS**
表には出にくい
小さな変化や
SOSをキャッチ

**学年・相談室・**
関係機関が連携

**未然防止に向けた**
組織的アプローチ

データに基づいた温かい見守りと関わりを重ね、
生徒全員が自分らしく輝き、仲間と共に成長できる学校づくりを進めます。

ほんこう がっき ちょうさ がっこうせいかつ いよく まんぞくど かん ちょうさ じっし
本校では、1学期に「Q-U調査(学校生活への意欲と満足度に関する調査)」を実施
しました。

Q-U調査は、テストのように成績や順位を競うものではありません。生徒たちが
がっこうせいかつ まんぞく せいせき じゅん い きそ せいと
学校生活にどれだけ満足しているか、また友人関係や生活面で密かな悩みや居心地の
わる かん きやっかんてき すうち とら ところ けんこうしんだん
悪さを感じていないかを客観的な数値として捉える「心の健康診断」です。

ひとより きょういん かんさつ じぶん みと しやうにんかん にんげん
日頃の「教員の観察」に加え、「自分はクラスで認められているか(承認感)」「人間
かんけい ふあん なや かが ひ しんがいかん きやっかんてき
関係で不安や悩みを抱えていないか(被侵害感)」といった客観的なデータ(エビデ
ンス)を基に、教職員チームで生徒一人ひとりをサポートしていきます。

データ（エビデンス）を土台に「自主協働」を育む

生徒が主体的に学び（自主）、仲間と力を合わせる（協働）ためには、まず「ここなら安心して自分を出せる」という心の安全性が不可欠です。データに基づいて集団や個人の状態を正確に把握し、以下の取組を全校で推進していきます。

（１）「自主協働」の基盤をつくる授業と学校行事

- 🔑 **安心（居場所づくり）**：「失敗しても大丈夫」と思える学級風土を整え、行事や委員会・係活動では全員に役割（出番）を用意します。
- 🔑 **発言（自主性の発揮）**：ICT機器等を活用し、一人ひとりの気づきや意見を尊重し、自ら進んで発信・挑戦できる機会を確保します。
- 🔑 **関わり（協働性の高まり）**：対話的なグループ学習や行事のプロセスを通じて、互いの強みを生かし合い、協力して目標を達成する体験を重ねます。

（２）不登校の未然防止といじめの早期発見・対応

表には出にくい小さなSOSや変化をデータから早期にキャッチします。学年・相談室・関係機関が連携し、いじめや不登校の未然防止・早期対応に向けた組織的なアプローチを行うことで、誰もが「自主協働」に向かえる安全・安心な環境を保障します。データに基づいた温かい見守りと関りを重ね、生徒全員が自分らしく輝き、仲間と共に成長できる学校づくりを進めてまいります。

「確かな学力」と「豊かな学び」の実現に向けて

今年度実施されました「全国学力・学習状況調査（3年生対象）」の結果を踏まえ、本校の生徒たちの成果と今後の課題、そして学校としての取組についてご報告いたします。

各教科の学力・学習状況

国語 平均正答率	数学 平均正答率	※英語IRTスコア
68.0% (全国63.9%)	60.0% (全国57.0%)	544 (全国 499)

※IRTスコア：解答の正答・誤答が問題の難易度や測定精度によるものか、生徒の学力によるものか区別して分析する項目反応理論を用いて算出される指標で、500を基準に算出した学力スコア

- ・ **全教科で高水準**：国語・数学・英語のいずれにおいても全国平均を上回る良好な結果となりました。特に上位層が厚く、着実な学習の成果が見られます。
- ・ **国語**：漢字・語彙や話の趣旨を捉える選択問題で高い正答率を示しています。
- ・ **数学**：図形領域や基礎的な計算問題において全国を大きく上回る強みを発揮し

ています。

- 英語：「聞く」「読む」の基礎的な読解・聴解力が非常に高く定着しています。

意識調査・学習習慣

- 自己肯定感・主体的学び

「自分にはよいところがあると思う（86.2%）」「課題解決に向けて自分から取り組んだ（82.5%）」と答えた割合が非常に高く、自分に自信を持ち、主体的に学ぶとする姿が伺えます。

- 日常的なICT活用と発信力

「授業で毎日端末を使う」生徒が75.6%（全国55.1%）。プレゼンテーション作成や情報収集をスムーズに行うスキルが身についています。

- 協働的な学びへの積極性

話し合い活動に意欲的な生徒が93.6%にのぼり、仲間と高め合う授業が浸透しています。

- 平日の学習と読書習慣

平日に1時間以上勉強する生徒が84.4%（全国61.6%）、読書習慣を持つ生徒の割合も全国より高い傾向です。

見えてきた課題・伸びしろと今後の取組

Point 1 全教科共通：自分の考えを根拠とともに文章で表現する問題での課題

条件見落とし
解答あきらめ

白板を減らす！

Point 2 誰もが安心して通える学校を目指す中での課題

相談できる？

「困った時に先生や大人にいつでも相談できる」と感じる生徒の割合に課題

今後の重点取組

条件を踏まえて「自分の言葉で表現する力（記述力）」の強化

1 全教科で「設問条件に①②③の番号を振り、しっかり確かめる習慣」を徹底

2 自分の考えを段階的に書き表すワークシート等の活用

「白板を出すに、まず書いてみる」粘り強い表現力を育成

デジタルを活用した気軽な相談と対話の充実

1 毎朝タブレット端末で学習・生活の様子や気分をチェック

2 Q-U調査の結果を踏まえた意図的な声掛け

全教科共通として、「自分の考えを根拠とともに文章で表現する問題」において条件を見落としたり、途中で解答をあきらめたりする傾向が見られます。

また、誰もが安心して通える学校を目指す中で、「困った時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と感じている生徒の割合に課題が見られます。

これらを踏まえ、本校では以下の取組に重点を置いてまいります。

👉 条件を踏まえて「自分の言葉で表現する力（記述力）」の強化

国語・数学・英語だけでなく、全教科で「設問条件に①②③の番号を振り、しっかり確かめる習慣」を徹底するとともに、自分の考えを段階的に書き表すワークシート等を活用し、「白紙を出さずに、まず書いてみる」粘り強い表現力を育てます。

👉 デジタルを活用した気軽な相談と対話の充実

毎朝、タブレット端末を使って「昨日の学習・生活の様子や本日の気分」をチェックします。対面では直接話しにくい些細な不安や「助けて」のサインを早い段階で受け止められる体制を強化します。

また、Q-U調査の結果を踏まえ、授業をはじめとする学校生活のさまざまな場面で、教職員から意図的に声掛けを行っていきます。

日	曜	学校行事
1	火	始業式、安全指導・避難訓練、放課後図書室開放（16：00～16：30）
2	水	給食始
3	木	テスト前日部活動中止
4	金	確認テスト
5	土	土曜授業（イングリッシュデイ）、学校公開、学校説明会、PTA定例会
7	月	
8	火	放課後図書室開放（16：00～16：30）
9	水	3年修学旅行
10	木	↓ 放課後図書室開放（16：00～16：30）
11	金	
14	月	全校朝礼・表彰
15	火	3年学力テスト、放課後図書室開放（16：00～16：30）
16	水	
17	木	放課後図書室開放（16：00～16：30）
18	金	
19	土	科学センター
24	木	放課後図書室開放（16：00～16：30）
25	金	生徒会立会演説会・役員選挙、水泳指導終
26	土	科学センター
28	月	生徒会朝礼
29	火	放課後図書室開放（16：00～16：30）
30	水	